

地域おこし協力隊 ひらた通信

執筆・デザイン・編集：酒田市地域おこし協力隊 内藤 ^{さよこ} 小容子【平田地域・東陽地区拠点】

身近な神社の林で“動物の落とし物”探し！



落とし物探し中

～南平田小 自然アドベンチャークラブ～

南平田小学校には自然アドベンチャークラブというクラブがあります。NPO 法人「ひらた里山の会」からのお声かけで私もコーディネートさせてもらっており、鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会の長船研究員と一緒に年間活動プログラムを考えています。

6月3日（金）の活動テーマは「神社で“動物の落とし物”を探そう！」。場所は砂越諏訪神社で行いました。

子どもたちが一生懸命に地面を探して集めてきてくれた

のは、鳥の羽根や灰色をしたボール状の謎のかたまりなど、さまざま。この謎のかたまりが何なのか推理してもらいました。だんだんヒントを出して、鳥が吐き出した未消化物（“ペリット”といいます）ということがわかると、「カラスが小鳥を食べたんじゃないか」という意見に。…惜しい！

実はこれはネズミを食べたミミズクの仲間の落とし物（ペリット）なのです。身近な神社にこんな秘密があったなんて、子どもたちも興味津々。

宮司の伊藤眞垣さんもおいでくださり、昔は境内に巨大なケヤキがあったことなど、貴重なお話をしてくださいました。

庄内地方の平野部には、神社の林に限らず「屋敷林」に囲まれた集落が多く見られます。これは庄内の強い風から家屋を守るために先人たちが築いてきた生活の知恵。そのような地域の風土や人々の営みが生み出した身近な環境に、さまざまな生きものたちも生活していて、食う食われる食物連鎖のドラマが繰り広げられていること。楽しみながら行った今回の活動を通じ、子どもたちが自分の郷土について少しでも何か感じとってくれば嬉しいです。



落とし物の主
（巣立ちしたミミズクの仲間の雛）



ペリットから出てきたネズミの頭骨



鳥の巣発見

【予告】集落の柿の木等を把握する調査を行います

「庄内 SHIBUGAKI 隊プロジェクト」では、昨年引き続き、集落内の柿の木を把握する調査を行います。まずは東陽地区で、みなさんと一緒に集落をまわりながら、どこにどんな柿の木などの果樹等があるか調べていきたいと思っております。日程等の詳細は自治会長さんにご相談しながら決定し、地区の方々にお知らせしますので、ご協力よろしくお願いたします！

「虫送り」～いまや希少な民俗行事



6月5日（日）、東陽地区北俣の鹿島集落で行われた「虫送り」に2年ぶりにお邪魔し、取材させていただきました。いつもご協力ありがとうございます！

「虫送り」は、稲の病害虫を追い払って豊年を願う“おまじない”をする民俗行事。全国各地の農村において、さまざまな形で行われてきたものの、農薬の普及で病虫害の脅威が減ったことに加え、過疎化や少子高齢化などによる担

い手不足により、実施する地域が減っているようです。

東陽地区でも昔は集落ごとに行われていたようですが、中野俣の6集落と北俣の8集落に聞き取りをしたところ、数十年前からやらなくなった集落が多く、今年実施したのは鹿島だけでした。

鹿島の「虫送り」は、子どもたちが鉦と太鼓を交互に打ち鳴らし、「稲虫ゃ送りヤ」というかけ声とともに、花で飾ったタラノキの枝をたたきつけながら集落の上から下まで練り歩き、最後に枝を川に流すというもの。今年撮影した分も、編集後に動画をYouTubeにアップする予定です。

そんな鹿島でも、「虫送り」の担い手である集落在住の小学生は、現在6年生ひとりだけ。今年は中学生や集落の方のお孫さんたちが助っ人に駆け付けましたが、来年はどうなるかわからないとのこと。

また、他の集落で行われていた「虫送り」について伺っていると、かけ声や用いる植物などに違いがあるようです。こちらについても追って詳しくお聞きし、記録を残したいと思っています。

自然への畏敬の念とともに、連綿と続いてきた「虫送り」。何かしらの形で未来へつないでいきたいですね。

きれいですが…実は外来種なんです

この季節、畔や川べりに黄色いショウブが咲いているのをよく見かけませんか。きれいですが、実はもともと日本には自生してなかった外来種の「キショウブ」です。絶滅が心配されるカキツバタといった在来のアヤメの仲間と交雑してしまうことなどから、環境省の「重点対策外来種」に選定されています。美しい花を愛でる人々の優しい心によって広まった経緯もあり、複雑な思いがしますが…。地域の季節を彩る景色は昔の姿とは変わってきているのですね。



■さよぼーの想い（編集後記に代えて）

6月11日の夜、東陽地区の北俣で今年初めてのゲンジボタルを確認してきました。いよいよ蛍火の季節がやってきましたね。

一方で、地域のみなさんからは「今年はクマなどの野生動物がよく出没しているようだ」との声をお聞きします。ツキノワグマの専門家に伺ったところ、この時期は庭先にクワの実が収穫されずに残っていると、それを狙ってクマが人里に下りてくることがあるとのこと。

薪や牧草や茅などで里地里山を利用してきた時代から人々の生活が変わったことで、野生動物と人間との住み分けがうまくいかなくなってきているようです。

